

2012年度 行事部主催 施設見学会報告《株式会社関西インフライトケイタリング》

平成24年8月21日(火)9:30~12:00

「株式会社関西インフライトケイタリング」は、ロイヤルホールディングスグループ会社の一員として、関西国際空港開港時より現在まで、機内食の調製などの業務を中心に経営されている企業です。

会社概要等の説明の後、実際に職場の様子を見学させて頂き、その後質疑応答の時間が持たれました。



1. 会社概要

設立：昭和63年(1988年)8月30日

従業員：170名（内7名が障がい者、約20名が外国人スタッフ）

委託先社員：170名

主な業務内容：1. 航空機内食の調製・販売・搭載、2. 食品(弁当など)の販売、3. 保税倉庫業、4. 空港ターミナルビルレストランの経営 など

顧客エアライン：26社

受賞・認定履歴等：UA QualityFirst Award 2nd semi annual 2011 はじめエアライン受賞多数。大阪版食の安全安心認証制度第1号施設。日本国内の機内食会社でISO22000認証取得第1号施設。マレーシア航空ハラル規格認証。食品衛生有料施設厚生労働大臣賞など多数受賞。

HP: <http://www.kicfinefood.com/index.html>

2. 障がい者の雇用について

現在は佐野支援学校との連携を密にしており、これまでに8名の障がい者を受け入れています。1年間のスケジュールとしては、5月頃に受入枠の確認、6月と10月に約2週間の実習期間があり、それぞれの実習期間において、実習生の基礎能力・技能の確認などを行っているそうです。2007年から障がい者の採用が始まり、現在までに8名が採用されています。実習時には、2週間の実習スケジュールを渡し、予定の見通しを立てやすくしています。また、実習の際にレポートをつけ、実習生の作業ごとの適性を見ているようです。その人の能力が会社の仕事に合うかどうかではなく、その人の能力に合った仕事があるかどうかを判断するのだそうです。また、学校から事前に情報をもらい、実習時の適性判断を行いやすくしたり、色々な作業をしてもらうことで、隠れた能力を掘り起こす取り組みをしたりするなど、積極的に努めています。

そういった取り組みの中で、学校でつけてほしい力として、

- ・きちんと大きな声で挨拶ができる。
- ・意思表示ができる。
- ・時間、手順、ルールなど決めたことを守る。
- ・責任感
- ・整理整頓
- ・持続力
- ・ある程度のコミュニケーション力

をあげられていました。



さらに、障がい者を採用することについて、その良さを以下のように述べられました。

- ・健常者以上の能力を発揮する。
その人が持っている能力を最大限発揮することで、単純作業の繰り返しなどにおいては、健常者よりも早く・正確に作業をこなすことが出来る。
- ・全体の生産性向上
障がい者の視点でわかりやすくシンプルに作業工程の見直しや組み替え・改善をすることで、従前よりも全体の生産性が向上する。また、指導する側も人を教える力がつく。

- ・企業の社会的責任（CSR）を果たす

2012年1月1日現在の雇用率は8名 3.0%、法定(1.8%)を大きく上回っている。(2012年8月21日現在で雇用は7名とのこと)

2011年には、大阪府障がい者就労サポートカンパニーに登録され、大阪府教育委員会より、「支援教育サポート企業表彰」を受賞されています。

3. 施設見学

施設見学の前に、白衣・帽子・マスク・靴カバーなどを装着し、衛生環境を損なわない状態になってから、3班に分かれて施設内を見学し、説明を受けました。食器類の仕分け、洗浄などの業務の様子を見る中で、障がい者の方の食器類の仕分けの手際の良さと、黙々と続けている姿勢に感心しました。

4. 質疑応答

Q. 障がい者の従業員の賃金は？

A. 法に定める最低賃金は守っています。



Q. 障がい者の雇用は、その人に何もなければ定年まで従事できるのか？

A. そう考えています。まだ7年ほどしか経っておらず、結婚や出産などの事態に直面していないので、具体例をあげることはできませんが…。

Q. 障がい者の方の通勤については？

A. 皆さん公共交通機関を利用しています。はじめは保護者の方と一緒に練習している方もいました。

Q. 採用枠に関して、その枠にどれほどの人数が集まるのか？

A. 採用については、支援学校と相談を重ねて、面接などを通して調整しています。

Q. 障がい者の雇用や支援学校との連携をするに至ったいきさつを教えてください。

A. 初めは、障がいを持った子の保護者の方がこちらに勤めていたことがきっかけでした。

5. お礼の挨拶 大阪府支援教育研究会 有山暁雄先生

以上 大阪府支援教育研究会 行事部

～参加者の感想～（一部抜粋）

- ・障がいのある方への支援によって、仕事の効率や全体の生産性が向上し、教える側の人間力の向上につながったというお話が印象的でした。また、その人の能力に合った仕事があるかどうかの視点で雇用されていることも印象的でした。
- ・会社の型に人を入れ込むというのではなく、その人にできることを探して、能力を開発するという考え方をされている会社で、すばらしい実践をされているところを見学できてよかったです。あの地道な作業を食の安全、衛生、サービスといった会社の信頼や質の向上をになう部門で黙々と働いていらっしゃる方々の姿に忍耐を感じました。多くの企業が障がい者に対してできることを増やして門戸を開いてほしいと思います。学校での力も磨いていきたいと思います。
- ・「その人の得手、不得手を見極めて仕事をしてもらう」と聞き、このように考え、採用してくれる会社ももっと増えて、障がい者の方が活躍できる場が増えればいいなと思いました。「学校でつけてほしい力」の話も印象に残りました。ルールを守る等、小さいころから指導し、身につけさせてあげなければと思いました。
- ・説明の中の「学校でつけてほしい力」というのは、生活していく中でも基本となることなので、小学校生活や家庭生活の中で身に付けられるようにしていかなないと改めて思いました。施設内を見学させていただき、標語や図、写真等、シンプルで視覚に入りやすい掲示があり、参考にしたいと思いました。